

「オートファジー」の不思議を科学する (基礎研究の進展と応用展開の可能性)

2016年6月10日(金) 13時~16時30分 (受付12時40分)

◆場所: アルカディア市ヶ谷・私学会館 東京都千代田区九段北4-2-25 TEL03-3261-9921

(JR、東京メトロ・有楽町線・南北線、都営新宿線、市ヶ谷駅から徒歩2分)

◆参加費: 光機能材料研究会会員(会員無料3名まで)、非会員6,000円(当日現金払い)、
学生無料(予稿集別途)

◆予稿集: 受付にて配布いたします。

◆申込先: 技術教育出版社 〒161-0034 東京都新宿区上落合1-18-5 Tel/03(3951)1799 Fax/03(3951)1789

「開催のねらい」

今、細胞内で不要あるいは不良品となったタンパク質や細胞小器官などを脂質膜の袋で包み込んで分解するオートファジー(自食作用)という生命現象が注目を集めています。「細胞内の掃除屋」ともいえる仕組みです。オートファジーの研究は酵母という単細胞生物での解析から大きく発展し、私たちヒトを含めた高等動植物において広く重要な役割を担っていること、また、オートファジーの破綻が様々な病気と関連することも明らかとなってきました。本講演会ではこのオートファジーのそもそも論と基礎的研究の現状、応用展開の可能性について、最先端で研究を展開されている先生方にお話しいただきます。

◆プログラム

13:00-13:40 オートファジーの基礎の基礎と酵母でのオートファジー 東京工業大学 中戸川仁氏
細胞が自分で自分の一部を食べる「オートファジー」とはどんな現象なのか、オートファジーの基礎の基礎と、酵母というシンプルな生き物を用いたオートファジー研究の最新の成果を紹介します。

13:40-14:20 植物におけるオートファジーの重要性 明治大学 吉本光希氏
動くことができない植物は、光合成機能など他の生物にはない特徴を持つ。本講演では、植物ならではのオートファジーの重要性について、私たちの研究成果とともに概説する。

14:20-15:00 哺乳動物におけるオートファジーの生理的役割 東京大学 久万亜紀子氏
この10年ほどで、私たちの体の中でオートファジーが様々な役割を担うことがわかってきました。遺伝子改変マウスの研究から明らかになったオートファジーの多彩な生理機能について概説します。

15:10-15:50 オートファジーとパーキンソン病との関係 順天堂大学 斉木臣二氏
パーキンソン病は本邦で2番目に高罹患率の神経変性疾患で、発症機序とオートファジーとの関連が解明されつつある。本講演ではその分子機序から治療的試みまでを概観する。

15:50-16:30 オートファジーとメラニンの関係 花王 村瀬大樹氏
皮膚色を構成するメラニン(メラノソーム)が、表皮細胞でオートファジーによって分解されることを発見し、それに基づく新たな皮膚色制御技術の可能性を紹介する。

16:30 閉会にあたって

「参加申込書」(準備の都合上、6/6(月)までにお申し込みください。定員になり次第締め切り。定員満たない場合当日受付可)

資格	<input type="checkbox"/> 会員 (3名まで無料)	<input type="checkbox"/> 非会員 (6,000円)	<input type="checkbox"/> 学生 (無料:予稿集別途)
社名			
所属			
氏名(ふりがな)			
住所	〒		
FAX		TEL	
e-mail			

FAX 03-3951-1789

(受付確認のご返信はいたしませんのでご了承ください。直接会場にお越しいただければ幸いです。)